

科目名		音声障害			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年	必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

音声障害の種類と内容、検査法、および治療・訓練の理念とその方法を学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕

理論的基礎と臨床技術の獲得のために、簡単な文献考察を試み、また模型や視聴覚教材を用いた授業で理論に基づいた検査や治療法について学ぶ。

〔講師の実務経験〕

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

音声障害への深い理解と科学的な臨床態度と臨床技能を修得する。

回数	講義内容
1	音声障害イントロダクション
2	頭部解剖
3	喉頭の軟骨
4	頭部の筋肉
5	咽喉頭腔の解剖
6	喉頭の機能
7	発声と声帯振動
8	弦楽器と発声
9	管楽器と発声(フォルマント、母音)
10	歌唱と歌声(腹式呼吸、共鳴、声区、音質のコントロール)
11	音声障害の検査法(喉頭ファイバースコープ、喉頭鏡)
12	音声障害の検査法(GRBAS、音響分析)
13	機能性音声障害総論(定義、分類)
14	機能性音声障害総論(喉頭所見)
15	音声治療法

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
言語聴覚療法シリーズ 14 改訂 音声障害	荻安 誠/城本 修	建帛社

【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。